



学友会に期待するもの

学友会会長 大橋 良一 (78回生)



不動岡高校学友会 会員の皆さん、元気で過ごすごしのこととお喜び申し上げます。さて、不動岡高校

は、ご承知のとおり明治19年に開校以来、本年で132年を迎えております。卒業生も約3万人と多くの人材を世に送り出し、様々な分野で幅広く活躍されております。その卒業生の集まりが学友会であり

幸い同様の考え方を持つ先輩、後輩の皆様とともに、平成25年に学友会活性化委員会を発足させ、従来、ややもすると前例踏襲で運営されてきたものを変化させてまいりました。例えば、70歳(古希)の節目を迎える方の総会への招待をはじめ、役員体制や事務局体制の見直しなどです。

しかしながら、高校との関係は、かつての私もそうでしたが、部活や恩師との関係など、特別な関わりがある方を除くと関心も意外と薄いのが実態です。さて、卒業生の皆様は御存じのこと



時代に求められるもの 「百周年記念誌」を編いて

校長 武正 章 (89回生)

「みな、とてもおとなしい坊ちゃんなんです。ちよつと規格品みたいな感じがするわけです。ぼくはやっぱり蛮気を持って。『蛮気』というのはぼくの造語でして、野蠻の『蛮』に気分の『気』と書きますけれども、もうちよつと蛮気がほしいと思うんです。」

「蛮気をまず先生方が持っていたらいい、名門校の歴史性を越えるんですね。……何か新しいものをもう一度生み出そうという、それが一〇一年なんだという自覚……。」

発行所 埼玉県立不動岡高等学校学友会 加須市不動岡 1-7-45 電話 0480(61)0140

とありますが、本校六十四回卒業生の水城顕氏(作家・石和鷹)は、芥川賞候補に複数回なるとともに、数々の文学賞を受賞し、一九九七年『地獄は一定すみぞかし』で伊藤整文学賞を受賞、同年逝去されました。その水城氏が『百周年記念誌』において、本校の卒業生について次のように述べています。

が多い時代となつています。こんな時代こそ「蛮勇」を振るって、社会の難題に立ち向かえる人を育てることが本校の責務であり、創立時から本校が受け継ぐべき精神ではないかと思ひます。着任した昨年、初心を振り返るべく「百周年記念誌」を編き、先輩諸氏の言葉から気を引き締めた次第であります。今後ともよろしくお願いいたします。

学友会新役員紹介

Table with columns: 職名, 氏名, 回生. Lists new board members and their graduation years.

学友の集いに参加下さい (学友会総会)

恒例の学友の集いを下記の通り開催いたします。本年度も学友会特別企画として古希を迎える学友の皆様(78回生)をご招待いたします。皆様お誘い合わせの上ぜひご参加下さい。

平成29年度 慶祝者名一覽 (敬称略)

- List of award recipients for the 29th year, including names like 小櫃 勇, 小島 卓, 岡田 道夫, etc.

学友会表彰について

- 学友会の表彰は、下記の表彰規程により、自薦または他薦にてご連絡を頂いた方となっております。該当又は、推薦される方は学校(学友会事務局)にご連絡をお願いいたします。

130周年記念講演報告

壇上警査委員 関根 郁夫(84回生)



平成29年1月21日、創立130周年を記念して3月末で退任する関根郁夫前教育長の特

別講演会が、不動岡ホールで開催された。本講演会には、学友会員に加えて、現役生保護者、そして加須市内中学校教員を加えた約120名が参加をした。開会にあたっては、大橋良一学友会長をはじめとする学友会役員に加えて、諸井真英県議会議員も多忙の中駆け付けた。

関根氏は、教員時代から県教育局勤務、そして教育長としての豊富な知識と経験をもとに「学びの改革」という演題で約60分の講演をした。

まず、現在の教育の現状「今、何が起きているか?」として、「グローバル化・ポスト近代化」「ICTをめぐる動き」「人工知能やロボットの発展」から、「学習指導要領の終わりの始まり」として「何を学ぶか」の時代から「どう学ぶか」の時代になりつつあることを説いた。続いて、埼玉県の動向を小中学校に関することを中心として、「学び合う学習推進事業」「埼玉県版学力・学習状況調査」などについて話し、「今、何が起きているか」という問いを持つか、持たないか、自分で答えを考えなければ、やるべきことは見えてこない」と力説した。さらに、時間が迫る中で、教育長として取り組んだこととして、「共有・共鳴する学校文化を構築する」として、子どもたちばかりではなく、教員同士・学校同士の学び合いの意義や、「学校の自立を目指す」として、学校のファンづくりについて説いた。そして、最後に、「危機意識の共有、よき探し、リスクベクトルづくり」として、「ほめる」ことがリスクベクトルにつながることを述べ、講演を閉じた。

内容的にはやや高度な内容もあったが、教育改革の動き、次代を担う若者が身に付けるべき力やそれを培う教育の在り方について、考えを深める内容であり、関根氏の教育に関する情熱や先見の意欲、埼玉県の教育をどうするかという強い気持ちを感じさせる講演であった。

古希祝のご案内

78回生の皆様へ

11月23日に行われる学友総会・懇親会に、古希を迎えられる78回生の皆様をご招待致します。(開催の詳細は1ページ目を御覧ください)

現在の不動岡高校をご覧いただき、級友や、先輩、後輩との話に花を咲かせて頂ければと思います。

78回生の方

卒業：昭和41(1966)年3月卒業
(生年月日(参考)：昭和22(1947)年4月2日、昭和23(1948)年4月1日)
・懇親会費は無料です。

申込方法

同封の返信はがきの回生欄に78回生とお書き頂くだけで結構です。
多くの皆様のご参加お待ちしております。

古希招待に寄せて 近況報告

中村 滋 (78回生)



私は不動岡高校を卒業して麻布獣医科大学に進み、卒業3年間に世田谷の動物病院で研修(丁稚奉公)して家に

戻り、家業の家畜病院を継ぎました。子供の頃は祖父母達から馬の医者になるように言われて育ち、時代の流れで牛、馬から耕運機やトラクターに変わり、そのうち豚もいなくなり診療対象動物が大動物から小動物に変わってしまいました。そして昭和の時代に北海道大 学獣医学部をテーマにした漫画「動物のお医者さん」で一気にペットブームに火が付きま

クラブ以外の思い出は、9年前の同期会の席で高校三年の時、数学の教員の担任だった小沢先生が私を見つけて「中村君に謝らなければいけない。君の獣医学進学への内申書を暫く出さなかったのを覚えているかい? 当時の牛豚の仕事は大変だしあまり将来性は見込めないで私は戦時中陸軍でレーザー銃の開発をしていて、君を同じ道に進ませたかったんだ。今の様なペットブームになるなんて想像もしなかった。すまなかった!」と、90歳近い小沢先生が深々と頭を下げられました。当時同級生はすぐに内申書が出るのにどうして自分だけ貰えなかったのははつきり覚えており、疑問を抱いておりました。

卒業後40年以上も経つのに一人の生徒の進路の事を未だに覚えてくれた事に驚き感激し、そして、心から感謝申し上げ、おかげで獣医師になることが出来ました。

そんな獣医師ですが、今も何とか動物病院をやっております。

不動岡高校には、創部当時、応援部が何度となく問題を起こして顧問の大貫先生にお世話になっていた為に責任を感じて今でも年に何度か行っております。現在では男女の生徒数が逆転した為7、8年前から女子部員が入部して浦和、熊谷、川越、春日部、松山高校の五校と我が校合わせて六校の応援団連盟の中で少しも引けを取らず堂々と活動しております。私の様な古希を迎えた爺さんでも高校に通って現役を指導しながら若者と語り合えるのは一瞬でも気持ちが高校時代に戻れます。

市内で仕事をしてお陰で、動物を連れて診察に来る同期生は元より先輩や後輩の方々と診察の合間に昨今の、不動岡高校で話に花が咲きます。

昨年、不動岡高校応援部OB会では創立50周年を迎え、初代から50代までが現役も交えて久喜市の三光サロンで一堂に会し武正校長先生、歴代の顧問の先生方、お世話になった先生、そして創部前後の黎明期にお世話にな

た先輩の方々にご参加戴き50周年式典を盛大に開催しました。

また、応援部OB会では9年前から還暦を迎えたOBが集う「不動塾」という会を創って年二回関東近辺を、冬は温泉巡り、夏は海幸と車旅しながら昔の先輩後輩の上下関係を外して昔の思い出にドブプリ浸り親交を深め、現役や高校のために何が出来るかを語り合っております。全てが不動岡高校のおかげで今があると感謝しております。

不動岡高校学友会の発展を心よりお祈りいたします。

川田 恒和 (78回生)



第78回(昭和41年3月)卒業の川田と言います。何時かは迎えるとは思っていた「古希」をとうとう迎えてしまいました。

さて、我ら世代にいつも付きまわっていたのは「団塊の世代」でした。小学校では10台のバスを連なつての遠足、教科書は兄の使用したお下がりか当たり前、卒業式は講堂(教室を繋いだ部屋)に入りきれず校庭でした。

中学校に進学すると早速野球部に入部、理由は用具が支給されるからです。高学年になると、高校の受験勉強「四当五落」と先生が叱咤激励、よく言われました「勉強しねえと偉くなねえぞ!」

そして不動岡高校へ、野球部に誘われましたが、ボールが硬く危なそうなので陸上部へ入部、部内の7種競技で最下位となり素質を見極めて退部。昭和39年に東京オリンピックが開催され、体操部の先輩がメダリストを引き連れて演技披露、躍動する肉体に感動しました。そして暫くして、不動岡高校応援部の教祖と言われる現OB会中村会長から応援部の創立を一緒に、と誘われて立ち上げました。夏休みには防衛大学の受験を条件に海上自衛隊の訓練体験合宿に一週間参加しまし

たが実は、訓練で飛行機に乗れるからでした。大学に進学して、一年の教養課程が修了したところが、一年少し経過したところで学生運動が激しくなり、あちこちでブントがアジテーションを始めるのですが、決まって内ゲバが始まり暫くすると機動隊が足音を地響きさせながらやって来て乱闘の繰り返し。そして我が校は13ヶ月のロックアウトとなります。何とか卒業となるのですが、求人は所属する研究室毎に来ます。就職して暫く経ち、任務地は成田新国際空港で北ウイングの建築工事の飯場、一部の工事の現場管理ですがある日駅までの送迎車が反対派に襲われて死亡者が出たりした現場でした。

そんな人生、残された命、何に使おうかと、良い年寄にならな...
不動岡高校学友会総会で古希の祝いをして戴く事になりました。そこで、78会卒業生同窓会では、学友会の総会、懇親会、終了後に同じ会場をお借りして9年ぶりに同窓会を開催することになりました。皆様お誘い合わせの上で参加くださいます様お願い致します。

不動岡高校78回卒業生 同窓会のお知らせ

日時 平成29年11月23日(木) 勤労感謝の日
時間 学友会懇親会終了後
会場 不動岡高校100周年記念館
会費 78回生同級会費として
男子 5000円
女子 4000円
代表幹事 坪井 敬
副幹事 内田照夫 中村滋
会計 唯木 純(旧姓新井)

79回生 協力依頼

来年は79回生の皆様を招待いたします。古希のお祝いについて学友会事務局と企画調整にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご連絡をお願いいたします。
連絡先 不動岡高等学校学友会
0480(61)01400・小野田

会員 NEWS

昭和22年甲子園に 近かった青春の時

野球部OB会を訪ねて

毎年7月の第1日曜日に開催される野球部OB会。今年も7月2日(日)に不動岡高校記念館大会議室での総会、現役激励会、食堂での懇親会と盛大に行われた。

戦後昭和21年1月に芸大出身の吉田久先生(18回卒)の呼びかけで復活した野球部。昭和22年2月、第19回全国中学校選抜野球、関東地区選手権大会は、稲川名監督率いる桐生中との対戦で、6回まで4点リードしながらも、終盤の厳寒の中で、逆転され、初センバツの夢が断たれた。しかしながら、短棒投げ県大会優勝経験のあるピッチャー飯塚と、キャッチャー島村の名バッテリーの大活躍で、翌昭和23年5月には、新憲法大会で優勝、同月下旬の春季県下中等野球大会でも優勝した。その年、夏の第29回全国中等学校野球大会では、甲

子園を目指し、優勝候補として出場したものの、初戦で川口工に敗れた。当時のスタメン、レフト木村氏(60回卒)とセンター影山氏(61回卒)は、この日のOB会にも出席し、現役不動岡高校野球部に檄を飛ばし、鮮明によみがえる思いを出し、少年のようなまなざしで語った。影山氏の「母校は私の原点です」、木村氏の「よく、不動岡高校の野球部のグラウンドを孫と一緒に見に来ます。元気が出てきてまた頑張れます。」という言葉に熱い母校愛を感じた。



総会では、活発な意見交換がなされた。また、役員引継ぎがあり、小林会長(72回卒)から泉新会長(81回卒)になった。現役激励会では、監督と現役部員とOBとの「三身一体」を目的とした。懇親会では、世

代を超えた交流のもと、校歌の大合唱で幕を閉じた。(参考「不動岡の野球」我が青春の白球譜)

会員近況報告

荒川 桜子 (105回生)



ピアニストの荒川桜子です。4月銀座のヤマハホールでのリサイタルのためのプロモーションで出演させて頂いたustreamと、SNSにて「自称加須観光大使」と書いたものが偶然にも角田副市長の目にとまったことがキッカケとなり、5月に本当に加須観光大使に就任する運びとなりました。

「希望は口にすると実現しやすい」とはよく言いますが、まさかの出来事に本当に驚くと同時に、人のご縁、ご好意にただただ感謝するばかりです。また、本投稿に関しても、ガラコンサート出演の際に出会いました松本様よりご依頼を頂きました。これもまた、ご縁とご好意です。本当にありがとうございます。さて、不動岡高校は幼少期から、とても親しみのあるところでした。高校の近くに生まれ育ち、父をはじめ親族の多くが不動岡卒であるため、小さい頃から文化祭などに遊びに連れて行って貰っていたからです。そんな不動岡は入学してみると、とても自由で、ユニークな先生や先輩、同級生たちが多く刺激的でした。ですが人生で初めて「落ちこぼれる」という経験をしたのも高校時代。大学に進学してもマイナス思考から抜けられず、落ちこぼれ、捻くれ荒み、苦しい毎日を送っているような状態でした。

そんな自分が、大学を卒業して何年も

経ってから、これまでの自分を反省し「人の心を潤せるピアニストになる」という子供の頃からの夢に真っ直ぐに向き合い、前向きに生きていく決意をすることになったのですが、これもキッカケは、人との出逢いでした。そして演奏家としては遅いスタートにも関わらず活動を続けてこられたのもまた、数々のご縁とご好意のおかげでしかありません。

最近では観光大使となったことをキッカケに、七夕様や鯉のぼりなど、加須に所縁のある曲もアレンジして演奏するようにもなりました。また、これもあるご縁が、下総院一記念ジュニアオーケストラの南先生との出逢いにも繋がりました。近い将来、共演したいと新たな希望も膨らませているところです。

自分ほど「おかげさま」で生きている人はそういないのではないかと、現場で育てて頂いた音楽家はいないんじゃないかと、思うほど、人に恵まれています。日々感謝と共に日々反省ばかりですが、音楽家として人としての成長を通して、少しでもご恩を還していけるよう、私も誰かにとつての素敵なキッカケになれるよう、更に自分の道を真っ直ぐに進んでいきたいと思っております。本当にありがとうございます。

毛塚 和弘 (119回生)



2016年度に東北大文学部研究科博士課程を修了し、東北大大学院長賞をいただきました。

学在学中では、数理社会学という文理融合学問を専攻しており、他にも学会賞受賞や海外での学会報告を経験しました。これらの成果は不動岡高校在学時の経験が大いに活かされた賜物であると考えています。

私は2004年に不動岡高校に外国語科に入学しました。当時は、英語と数学が得意だったので「英語ができる科学者になりたいなあ」と漠然と考えていました。外国語科は当然文系コースの一つであり、理系に進学すること自体が想定されていませんでした。しかし、高校の先生方のお取り計らいにより、理系科目などの受講などさせて頂きました。結果、早稲田大学基幹理工学部に進学することができました。このような経緯は私に文系・理系双方のセンスを養い、冒頭で述べました結果につながりました。当時の先生方には非常に感謝しております。

今後不動岡高校で培ったことを活かして研究活動に邁進してまいります。

古川 悠太 (120回生)



2008年3月卒業120回生古川悠太氏。彼は今、長野市芋井地区でりんご栽培の修行中だ。

2008年4月、法政大学文学部地理学科に入学。そして、「就職する前に海外で生活すること」を目的に、在学中にカナダのトロントで1年間のワーキングホリデーを計画する。

トロントでは、南米系のパン屋、アジア料理屋、ナイトクラブなど、いくつかのアルバイトをしながら生活。この日々で「食とライフスタイルの結びつき」を実感したそう。当時は円高で「貯まったお金を日本に持ち帰ると損をする」と、海外生活を1年延長して、引き寄せられるようにドイツへ。それが今の彼に繋がっていく。若く多感な時期の海外生活、それもトロントという多文化共生の街で「働く」ことは彼の人生に深く関わる「何か」をつかむこととなったのだろう。

**第8回不動岡高校
卒業生による
ガラコンサート**

平成29年10月29日(日)

開場: 13:00
開演: 13:30
開場: パストラルかぞ
小ホール
(全席自由)

入場料: 1,000円(前売券)
1,200円(当日券)

W W O O F という N G O を利用し、ドイツ南部の牧場に住み込みで働くことになる。滞在先は家族経営の酪農家。オーナー夫婦は酪農家出身ではなく、農学修士を得た後、農業法人に就職し、高齢農家を引き継ぐ形で独立。人手不足で W W O O F に手伝いを募集、そこに彼が応募したのだ。朝夕2回牛40頭の搾乳、餌遣り、掃除、放牧、小屋の建設がルーティン。加えて、機械故障、牛の脱走、発病、出産とイレギュラーが続発する3ヶ月の滞在が、彼の人生を変える。その当時のことを振り返った彼の言葉がある。「自分の生産したもので生計を立てるシンプルさと、オーナーが示す仕事と生活への誇らしさがたまらなく魅力的だった。」

そして今、彼は長野の芋井地区にいます。品質が良く評価の高いりんごを生産する芋井。高齢化による後継者不足を補うため、いや、専業農家による規模拡大経営に挑むため、将来を見据えてりんご栽培に飛び込んだ。「まずは、1本の苗木を育てなさい」と言うりんご一筋60年の親方のもと、「明日世界が減っても、私はりんごの木を植える」というマルチン・ルターの言葉を引用して、「これほどの場所と私に似合う言葉はない」と言い切る彼。周囲の心配をよそに来年6月の独立をめざしている。そしてもうすぐ今年この収穫期だ。

フェイスブックにて奮闘公開中!!!
www.facebook.com/yuta01noi

同窓会・OB 会報告

86 回生同窓会 平成28年10月22日 「ドキドキ同窓会」於：プリランテ武蔵野



平成28年10月22日86回生同窓会が開催されました。

10月なのに肌寒さを感じる土曜日の午後、少しドキドキしながら会場のホテルに向かいました。

前回の同窓会に出席できなかった私にとつて40数年ぶりに会う旧友です。私のこと覚えていらっしゃるしら・・・名前が思い出せなかつたらどうしよう・・・

でも、そんな心配は要りませんでした。受付には幹事の皆さんが用意してくれた卒業アルバムからの写真付き名札が用意してあり、100人を超す人が集まった会場は明るい笑顔でいっぱいです。不動岡高校3年間の思い出を中心に、おしゃべりしたり写真を撮ったりして、楽しい時間を過ごすことができました。

不思議なものです。もう60歳になつてしまったという気持ちとは別に、60代もいものかもしれないと思えてきて、背筋を伸ばして帰路につきました。

そして数日後、幹事の方から厚みのある郵便物が届きました。同窓会会場でクラス別に撮った写真が素敵なアルバムになっています。「写真はインターネットからパソコンで見られます」というお話でした。でも、こうしてアルバムを手にとりページをめくっていくと、そこには高校時代の顔と同窓会の時間とが重なって、ほっこりしてきます。

出席した私たちにとっては、楽しい数時間だったけれど、幹事の皆さんはこの同窓会のためにどれだけの時間をかけてくださったのでしょうか。ありがとございませう。次回も皆さんと一緒に元気に校歌が歌えますように！(さわやか3組 梅沢光子)

92 回生同窓会 平成28年11月6日 「5年ぶりの再会」於：百周年記念館



平成28年11月6日(日)、第92回卒業生(昭和55年3月卒)の学年同窓会が母校不動岡高校にて開催されました。前回平成23年秋の開催から5年ぶりの再会となりました。当日は担任の先生方5名をお迎えし、同級生84名が集い、受付を済ませた後は、資料室等の見学、中庭での写真撮影に続いて学食にて懇親会に移りました。

前回に比べると若干少ない参加人数でしたが、乾杯が済むとすぐに食堂のあちこちで先生方を中心に談笑の花が咲き、当時のクラスメートはもろんのこと、クラスを越えて旧交を温める光景も見られました。出席者全員が40年の時を超えて高校生に戻り、大変楽しいひと時を過ごすことができました。

今回はお土産として、本多 正直君(校門横の「質実剛健」の碑は本多君の制作です)デザインのポプラ並木をプリントしたエコバッグと、校章を焼き印した紅白饅頭を用意しました。

95 回生同窓会 平成28年11月12日 於：パレスホテル大宮



平成二十八年十一月十二日(土)午後十二時半より、パレスホテル大宮にて、我が95回生の同窓会が開催されました。恩師の先生をお招きし、十クラス合同で行う同窓会としては、卒業以来初めてです。

自分達で連絡できる同級生に連絡をとり、プレ同窓会なるものを実施しました。

今回はその反省を生かし、同窓会代行会社に委託をし、95回生に同窓会グラフというサイトに登録してもらうことで、多くの同級生に連絡をとることができました。そして、本同窓会を開催することができました。当日は、四百五十七名のうち、百七十四名の同級生が、三十四年ぶりに集まり、旧交を温めました。

何よりもうれしかったのは、恩師の先生方との再会です。出席して下さったのは、

81 回生同窓会 平成28年11月28日 於：百周年記念館

五組担任の小林博先生、六組担任の三上容弘先生、七組担任の石田栄三先生、八組担任の坂詰隆先生、九組担任の山中茂樹先生の五名です。

卒業アルバムと見比べて、「変わっていないね。」と言われる人もあれば、「あの人誰?」と言われる人もいて、三十四年の月日は、見た目をかなり変えてしまいました。でも話をするうちに、高校時代にタイムスリップし、部活や文化祭・体育祭、日常生活のあるある話など、懐かしさで会場は盛り上がっていました。

懇談の間に、クラスごとの写真撮影、先生方のご挨拶等が続き、最後に、95回生同窓会代表幹事であり、当時応援団長でもあった荒木君のリードで、懐かしい校歌を歌いました。山中先生の元気なかけ声で、みんながさらに盛り上がり、会はお開きになりました。

その後も二次会、三次会...と盛り上がり、クラス会を計画しているところもありました。

次は、四年後の東京オリンピックの年かまたは、我々が還暦を迎える八年後に実施できたらいいなと考えております。今回参加できなかったみなさんも、次回はぜひ参加していただければと思います。

(第95回生同窓会発起人・幹事)

私は、1985年の創立100周年記念式典に出席させて頂き、その式典に感動致しました。如何にかして、この100周年記念館を使わせて頂き同窓会が出来ないものかと思ひ、当時教員として勤務していた同窓生に相談をしました。会則や組織を作り、運営方法を図に表し、学校側に説明に行きご理解を頂き、翌86年に第1回同窓会を開催し、2016年

...



11月23日第7回を開催いたしました。

66歳となった同窓会は以前とは様子が違いました。始どの者が退職しセカンドライフを楽しんでいて、その話題に花が咲いていました。

又、加齢なのか、胸の名札を指差して本当にお前なのかと言いついては、肩を組んで校歌を歌っている者、ウーロン茶を片手に女性群に話しかけている者、何ともはや賑やかで、楽しい一日でした。

閉会にあたって私は毎回言うのです「シューアゲイン」てね、みんな、ありがとう。(第81回同窓会会長 岡清文)

82回生同窓会 平成28年12月3日

於：百周年記念館

平成28年12月3日第82回生同窓会が開催されました。

「同窓会とはなにか。それは、同じ学校の出身者の会合、卒業年次による先輩後輩という縦の関係と、同期卒業の横の関係を基盤として、対内的には情緒的な共同体意識をつくりあげるものであります。

第82回生同窓会は、平成2年に初めて行い、平成8年から、5年毎の開催となり、平成28年で6回目となりました。28年同窓会は、代表挨拶、先生の御挨拶、亡くなった方への黙とう、乾杯と続き、各クラスの紹介、各クラブの記念写真撮影などをを行い、終了となりました。同窓会の醍醐味は、女の子からとんと呼ばれなくなつた、「増子君」という声かけがあったこと

に尽きます。恥ずかしさ、驚き、懐かしさ、嬉しさ、安心なのは、ないでしょうか。恩師も多く、仲間も随分と亡くなりま

した。死ななければ認知症の時代、同窓会は、ボケ防止には、この上ない刺激になります。これからも第2、第3の青春を謳歌していきます。(増子誠)

125回生同窓会 平成29年2月12日

於：百周年記念館

2017年2月12日、不動岡高校の学食において、125回生の同窓会を行いました。卒業後初めてとなる今回の同窓会では、115人の卒業生が集まりました。また、3年次の担任だったほとんどの先生方にお越し頂き、感謝の気持ちでいっぱい



です。そして今回の同窓会は高校卒業から4年が経ち、次のステージに向かう卒業生が多数となる節目の時期での開催となりました。私自身も4月からは社会人としての第1歩を踏み出しますが、旧友たちや先生方からの言葉を胸に、誇りを持って頑張りたいと思います。不動岡高校はいつでも帰つてくれる、家のような場所であると感

じることができた会となりました。(幹事代表 藤倉理江)

88回生同窓会 平成29年6月10日

於：市民プラザかぞ多目的ホール

同窓会のきわめつけと言えば校歌斉唱。へ富士と筑波の峰清く...、応援団長だった



不動岡高等学校第88回生同窓会

加藤勝巳氏指揮のもと、酔いの回つたおじさんたちが和気あいあいとスクラムを組んで歌っていた。姿かたちは変われども、心は一瞬にして時を飛び越えられるのだ。

二〇一七年六月一日、市民プラザかぞにおいて二回目となる同窓会が開かれた。富士や筑波こそ霧に隠れていたものの、会場へと向かう半袖の腕に梅雨の合間の日差しが心地よく染入ってきた。

卒業後、再会の機運に恵まれないままいつしか三八年の月日が流れていた。ちょうど五五歳になった年だ。そして念願の初の同窓会の別際に誓い合ったのが、還暦を迎える年、再び祝盃を挙げようということだった。

今回は124人の校友と6名の恩師を迎えることができた。パンフレットの表紙には「世界一周の航海」という詩が添えられていた。高校生活の三年を練習船に見立て、そこで鍛え学んだことを社会の中で活かしてほしいという内容だ。これは田代厳恩師が卒業のときのアルバムに寄せたものである。

たしかに本当の航海が始まったのは社会に出てからだ。地震や津波もあった。特に厳しかったのはバブル崩壊の風雨だろう。しかし私たちは自らの位置を見失うことなく、的確に舵を操ってきた。

そこには、生まれ育ったこの土地がらが少なからず影響していたと思う。広大な平野と利根水系に恵まれた穀倉地帯。ここで先人たちは、時代の波に翻弄されず堅実に生きる知恵を身に付けてきたに違いない。四十余年の時を経て、こうしてまた元の港に戻ってきた。私たちはここで生まれた。この土地のことを誰よりもよく知り、広い世界を経験した。それならば成長したこの目で、新たなふるさとを想い描けないものか。そしてそれを次の時代に託せないか。これまで学んできたことは、生まれ育ったその土地の上にあるはずだから。(松永康)

応援部OB会創立50周年記念

謡曲《敦盛》の一節に「人間五十年、下天の内を比べれば夢幻のごとくなり」とあります。人の一生は五十年にすぎないからと解釈されがちですが、本来は「人の世の五十年の歳月は下天(天界・六欲天の最下位の世)の一日にしかあたらない、夢幻のようなものだ」という意味です。しかし、高寿命化になった現代でも、五十年は大きな節目に違いありません。不動岡高校応援部OB会は、昨平成二十八年度にその五十年の節目を迎え、いくつかの記念事業をなすことが叶いました。現在の応援部OB会は、次の十年へ向けて、役員世代交代など、新たに舵を切り始めています。また、不動岡高校現役応援部も、根本となる精神は維持しつつも、一昔前とはそのスタイルを変えつつあります。

応援部OB会と現役応援部で特筆すべきは、五十年を超える歴史の中で、一度も途切れたことがないことです。

この紙面で五十周年事業についてご紹介したいのですが、皆様によりご理解を頂きますよう、合わせて応援部OB会の歴史も

述べさせていただきます。

昭和三十八年、当時の坂本利雄生徒会長が、「応援部を創りなさい」と発した事が応援部創立の発端です。一年生の中村滋(後の初代部長・現OB会会長)が立ち上がり、大貫厳先生に、苦難の嘆願の末顧問を受けて頂きました。更に難関は続き、応援部可否をはかる職員会議の空気は全く否定的でしたが(故)法元六郎先生が覆して下さいました。

昭和三十九年応援同好会として動きだし、昭和四十年に大学の現役応援部員であった、臺正知先輩(第七七回卒)の指導を受け応援部の礎を築くことが出来ました。また、応援のモットーに掲げた《奉仕の精神》を実践するため、毎水曜日にリヤカーをひいて、校内の清掃活動を行い続けました。

昭和四十年十一月、七十八回初代部員が三年時点で同好会は部への昇格を果たしました。初期時代の部員には不祥事まがいの騒動に関与し、学校や顧問の先生に大変な迷惑をかけてしまう事もありました。やがて徐々に校内での応援部というものが認められ、折々の学校行事に欠かせない役割を担えるようにもなりました。

近年は部員の減少傾向が続く、部員ゼロの存続の危機にも見舞われました。その苦しい時期に十二年間にわたり顧問を務め、応援部の恩人ともいえる石川健司先生によ



る発案で、女子生徒の応援部門戸開放に踏み切りました。この奇策が功を奏し、以来連載コミックのモデルにもなり、各メディアからも注目を集め続け新聞、テレビで度々紹介されるまでになりました。

埼玉県内の旧制中学を出自とする6校による、埼玉県六校応援団連盟がありま

す。不動岡以外は全て男子校で、不動岡に女子部員が誕生した際には除名の動きまで起こりました。現在は女子団長も認められ、合同で演技しています。他校の応援部には、不動岡より古い歴史もありますが、応援部及びOB会が一度も途切れず続いているのは不動岡だけです。

その応援部OB会は、平成二十八年年度に創立五十周年を迎えることが出来ました。OB会はいままで、毎年の現役活動資金の補助や、数回の応援大団旗の新調等を行ってきましたが、今回五十周年記念事業として、合同部室棟2階の、だいぶ傷んだ応援部部室の壁、床、柵、初代から続く、歴代総数百六十余名の部員名札掛け等を夏休み期間に改修致しました。現役部員たちには気持ちよく使ってもらえればと思います。また十一月に久喜市の三高サロ

ンに於いて「不動岡高校応援部OB会創立五十周年記念式典及び祝賀会」を開催いたしました。これは川田恒和(初代)委員長を筆頭に、五十周年記念事業執行委員会を立ち上げ、役員と有志で、二年余りの準備期間を掛け、出来るだけ多くの会員と関係諸氏に喜んで頂きたいと練った計画です。行

の差がありますが、程よく年代順に座ってもらいました。こういう幅広く、かつ見事な年齢バランスは他の会合では滅多にみられないでしょう。・人生の進路に目標を定め、勉学の場に身を置く世代・実社会に出て、希望と不安を胸に懸命に働く世代・家庭を築き一家の柱として責任を負う世代・中堅として周囲を指導し頼られる世代・人生に成功をおさめ己が道を振り返る世代と様々なOB達です。それらの年代世代を超え、応援部OBであるだけで、繋がりたいときには任意に、支障なく繋がりを

持てるのです。これは、会員個々人が「応援部をたまたまなく好きだ」という小さな積み重ねと、途切れず五十年繋いできた一人一人の小さな継続の力なのでしょう。

また祝賀会では、現役二、二年応援部員とチアダンスチーム「ドロップス」選抜メンバーに演技披露してもらった場を設けました。初めて女子部員や、チアリーダーをご覧になられた方もおられました。ご出席頂いた皆様には、当時を振り返り先輩、後輩、恩師と語り、応援部と不動岡高校の現在未来に思いを馳せて頂いたのではと思

います。平成二十九年度の一年部員は男子2名、女子5名、三年までの総勢は十一名です。学園祭での応援部ステージ演技《不動の集い》は人気演目で、生徒のみならず、大勢の父兄の方々が満席です。お会いした現役部員の父兄から「子供が挨拶をするようになった。」等々と感謝の言葉を頂くこともあります。

ここ数年の傾向として、夏季の学校説明会を訪れ、応援部の歓迎模範演技を観覧し関心と憧れをいだけて自主的に応援部に入部する新入生が殆どであるそうです。いくつもの変遷を経験してきた応援部と、応援部OB会にとって手放しで安心することは禁物ですが、五十年を経て芽を吹いた、ま

さしく最良の連鎖と慶ぶ次第です。ありがとうございました。(第82回応援部第五代鳥海(堀越)和彦)

校内人事

新教職員

Table with 3 columns: 氏名, 教科, 回生. Lists new staff members and their subjects.

転出・退職者

Table with 3 columns: 氏名, 転出先, 回生. Lists staff members who have moved or retired.

2017入試結果

国公立大学合格者数 77名 (現役60名)

G M A R C H 1 8 6 名 合格

大学現役合格率.. 84%

大学現役進学率.. 80%

Table comparing university admission results for National/Public and Private universities.

大きく増加した。理系では、「理」「工」の前年比増加幅は小さいが、「工」の建築・土木分野は人気となっている。本校では、3年生の97%がセンター試験を受け、国公立大に60名が合格した。現役合格率は昨年よりやや減少したが、既卒の合格者が昨年より倍近く増え、東北・北海道・東工等の難関大が占めた。また、前期日程が終了しても集中力を切

2017年度入試の志願者数は、国立大で前年並み、私立大で増加と対照的な結果となった。

国公立大の学部系統の人気は、文系では「文・人文」「社会・国際」の志願者数は前年並みにとどまる一方、「法・政治」「経済・経営・商」ではさらに人気が高まっている。理系では、「理」「農」で志願者が減少したものの、「工」では増加しており、理系全体で同じ動きとはなっていない。

私立大の各系統の動向は、昨春までの鮮やかな増減とはやや状況が異なる。文系では、「文・人文」「法・政治」の前年比増加率が低めとなった一方、「社会・国際」「経済・経営・商」では志願者が

進路指導主事 細村拓也(95回生)

頑張る不高生！

部活動報告



インターハイ5位入賞 高島春佳
最初から最後まで緊張さえも楽しめたレースが
出来ました!!
100m平泳ぎ 1'09"87

●水泳部・学校総合体育大会
高校水泳競技会女子100m
平泳ぎ 3位高島春佳 6位
古閑郁香・200m平泳ぎイン
ターハイ標準記録突破高島春佳
8位古閑郁香・関東高等学校
水泳競技大会100m平泳ぎ決
勝進出8位高島春佳・インター
ハイ100m平泳ぎ決勝5位
入賞 ●陸上競技部・全国高
等学校陸上競技対抗選手権大会
(山形インターハイ) 女子棒高
跳び(予選) 3m50 組5位
飯田真優子 決勝出場記録なし
・国体予選東部地区大会 男
子4×400mリレー3分25
秒71 2位 福沢、蛭間、石嶺
洪澤 女子400m 60秒51
2位松島亜実 女子400m
ハードル64秒62優勝松島亜実
女子棒高跳び3m40 2位
飯田真優子・関東高校陸上競技
大会(北関東地区) 男子棒高跳
び 記録なし 加藤瑠二 女子
棒高跳び3m50 4位 飯田真
優子 女子400mハードル65
秒05組4位松島亜実 ●男子テ
ニス部(硬式)・第6回埼玉県

国公立高校テニス大会 団体6位 ●バド
ミントン部(男子) 県民総合体育大会兼
埼玉県高等学校バドミントン新人大会8
位青山琉哉 ●卓球部・関東大会兼インター
ハイ東部地区予選男子団体3位 女子団
体3位 女子ダブルス3位 川端祥歩、
小菅実久 組・東部地区大会 女子シ
ングルス6位松永真季、16位連沼那奈 ●
吹奏楽部・第58回埼玉県吹奏楽コンク
ル地区大会銀賞代表、県大会銀賞代表・
第23回西関東吹奏楽コンクールへ推薦・埼
玉県マーチングコンテスト高校B部門銀賞
●音楽部・埼玉県合唱コンクール銀賞

スーパーサイエンスハイスクールとは？

将来の国際的な科学技術関係人材
を育てるために先進的な理数教育を
実施する高等学校を、文部科学省が
指定するものです。本校は平成23年
度から5年間の指定を受けました。
平成27年度に研究開発は終了しまし
たが、平成28年度は経過措置として
SSH事業を継続し、今年度は新た
に第2期(5年間)の指定を受けま
した。

SSHの活動から

由元 美風(130回生)



私は入学後すぐ物理部に入学しました。
入学前の学校見学の時、不動岡高校が

SSH認定校であり、理科学系の部活に
おいて、さまざまな面白い研究が行われて
いることを知ったからです。

一年生の時は、アメリカ研修での研究発
表に向けて研究を行いました。その研究が
日本学生科学賞でも高評価を得、入選二
等をいただきました。そのときの研究テ
マは「レーザー距離計による屈折率の測定」
でした。初めの方法では、上手く測定でき
ませんでした。新たな実験方法を開発
することで、測定における問題点を解決し、
精度の高い測定をすることができました。

二年生では「二次元格子と回折像」と
いうテーマで研究を行いました。一年次の
研究より内容が複雑であったため、相手に
理解してもらうためには高いプレゼンテ
ーション能力が必要でした。初めは上手く伝
えることができませんでした。繰り返し
し発表を行っていくうちに、研究をわかり
やすく伝えることの重要さと楽しさに気が
付きました。その結果、県中央展では最
優秀賞である県知事賞をいただき、日本
学生科学賞では入選一等を受賞することが
出来ました。

三年生になった今でも、私は後輩ととも
に研究を行っています。そして、私がこの
二年間で得た経験を少しでも後輩に引き
継いでいきたいと思います。

スーパーグローバルハイスクールとは？

国際的に活躍できる人材育成を重
点的に行う高等学校を文部科学省
が指定するものです。語学力だけ
でなく社会の課題に対する関心や
教養、コミュニケーション能力、
問題解決能力を身につけたグロ
バル・リーダーの育成を目指して
います。本校は平成27年度から5
年間の指定を受けました。

SGHの活動から

・「多文化共生」を学ぶ基礎講座「ひょう
たん島ワークショップ」…埼玉大学 桐
谷教授

・「加須市の多文化共生の取り組みについ
て」…加須市役所、加須市商工会、三
友商事

・「加須市を来訪する外国人客について」
講話…加須第一ホテル、センターホテ
ル支配人

・「日本で生活する中での困難について」交
流イベント…かぞこほんの会

・「多文化共生の実現と課題―何をどう調
べるか」…中央大学 森茂教授

・スーパーグローバルクラブ(SGC)…
国際学校建設支援協会代表理事来校
・マレーシアシンガポール研修(8/19)
6泊7日

※詳しくは不動岡高校ホームページ S
GHニュースレターをご覧ください。

(教諭 山下泰寛)



国際交流

「日本文化体験について」

6月22日(木)
から7月2日
(日)まで姉妹校
であるオーストラ
リアのキンガロイ
高校から19名の生
徒と3名の教員
が不動岡高校に
やってきました。



キンガロイ高校と
は20年来姉妹校として関係が継続し、生
徒同士が交流し、相互にホームステイや
学校の生活を体験する中で、友好的な関
係が続いてきました。

今回の滞在中、キンガロイ高校の生徒は
いろいろな体験をしました。その中でみ
んなが喜んでくれたものの一つが、浴衣の着
付けと茶道の日本文化体験でした。着物
の着付けの先生から英語で着物についての
説明を聞いた後に、本校の教員や、ホ
ムステイを受け入れてくれたバディの生徒
も手伝って、畳の部屋でキンガロイ高校の
生徒と先生全員の着付けをしました。そ
してその後、茶道部の生徒による、お手
前を披露してもらいました。英語で手順
を丁寧に説明し、一人ひとりに抹茶を振る
舞ってもらい、いつもはにぎやかなキンガロ
イの生徒も少しかしこまった様子でした。
浴衣の着付けを体験し、たくさんの写真
を撮り、すっかり日本文化体験を満喫して
いました。

今回のキンガロイ高校の受け入れに際し
ては、ホームステイの受け入れをはじめ、
授業や部活動等であるいろいろな方に様々
な形で協力していただいたことで成功するこ
とができたと思っています。ありがとうございました。
(教諭 田沼尚子(111回生))

平成28年度 学友会 年会費 納入の方々

『50回』並木忠雄『52回』中田豊助『54回』小川勝信『56回』小林悦夫、鈴木文男『57回』龜山清次郎、新井健治、岡安仁美、河野雪雄、並木友次『58回』青木廣司、鈴木茂『59回』田辺茂巳、三枝安茂、湯橋十善『60回』駒宮太一、中太庄、原正彦、増田勉『61回』平井利夫、塩原秀夫『62回』小暮晶朗、齋藤五郎、台健、坪井忠夫、福田功、本多一基、鷺川潤、森井信行『63回』井ノ山恒雄、小沢政夫、齋藤博道、中島貞一、野本力、福島勇、内田時夫『64回』安藤義夫、大室達夫、柿沼貞雄、柿崎一郎、小嶋悦雄、小堀省吾、篠崎英治、鈴木秀三郎、堤栄之助、野本達雄、藤倉輝夫、町田重雄、松永喜芳、若狭信夫『65回』大室達夫、齋藤馨、沢田政雄、梅澤文男、杉田勝房、山田健、田辺雄三、田沼睦、藤間修一、富田眞平、野中優男、蓮見武男、福島志郎、堀口久美子、茂呂鶴乃、木村信子、小暮洋子『66回』入江常夫、篠崎繁雄、竹村喜弘、寺沢文也、中島圭一、長濱憲、福岡利則、若林力、石島弘子、田部井竹子『67回』鴨野幸雄、坂口金作、杉田守康、藤澤格、松村修、松村敏孝、山田滋、三浦千代、小磯ミチ子、小林美津子『68回』青木清、新井省三、伊藤伸一、今泉翼、榎本喜美夫、遠藤俊作、加藤昌宏、齋藤彰、榎原敏生、若林信利、岩本澄枝、新井節子、今井京子、高橋とし子、田部井静代、坂巻文枝、藤間基代『69回』阿部顕一、大貫巖、門井英二、木村恵一、桐谷俊、小堀敏男、永嶋龍次、沢田一男、島村英一、岡戸徳次、中川正男、金山雅一、野中敬二、樋口忠孝、平沢紘介、蛭間貞夫、森田利夫、山崎謙二、渡辺宏、青木照枝、池田菊江、河野淑子『70回』朝比奈徹、藤井光男、五十嵐敬、河野祐一郎、木村紀久雄、田辺利夫、野中正幸、深井智之、洪川徹、松村雄、武藤功、吉岡楓雄、熊谷あい子、田辺末子、田口君子、新井秀子、丸山明子、関口久子『71回』高橋洋子、篠崎千恵子、新井榮一、石田勝己、竹之内恒男、萩野貞成、木宮進、木村孝夫、小峯十百一、中島信行、掘越大能、本多喜与司、山根克己『72回』新井淑子、阿部紀子、小寺順子、青鹿三郎、新井陽吉、石川勝正、藤居弘、岩崎良一、小川智之、勝田勲、加庭寿久、木村光昭、児島圭吾、中村俊継、野中一志、野中常七郎、野中博、河野充宏『73回』清水昌子、金子久美子、近山茂男、中島英世、萩原義之、橋本昌明、酒井武、宮内達夫、森博『74回』龜田恵子、柳洋子、齋藤陽子、三浦君子、埴原千代喜、新井廣子、渡辺由紀子、高橋裕子、早川正男、江黒宏、大澤郁男、篠崎秀晃、萩原忠夫、穂山健太郎、卯都木菊雄、奈良昭男、高橋善之丞、大越宏一、田口幸七郎、永橋進、宮沢浩、川井一彦、中島武、早川忠男、福田實、矢澤將之、渡辺孝太郎『75回』鹿兒島可津子、重田君代、小川洋子、竹下成子、奈良勝子、神澤靖昭、峯岸信幸、新井正弘、上原剛明、相沢勝寿、中島良雄、横山博之、塩崎一秀、水野勉、由木義文、小川王幸、原徹、森元秀男『76回』齋藤萬智子、鹿兒島金衛、池田雅彦、萩原敏男、飯塚孝吉、白倉幹男、田中清白、吉田耕『77回』中里英子、山下美恵子、吉澤良子、萩野千代枝、齋藤美津子、塩崎とも子、岡田道夫、島田一彦、福島弘明、吉田一樹、石井司郎、松井樹、三ツ木義弘、岸哲夫、小山貢、染谷憲明、福島四郎『78回』兼子千恵子、広瀬純子、伊井悦子、曾根美智子、桂美枝子、梶山至、栗原富雄、唯木純、川田恒和、栗原正孝、齋藤智美、戸川泉、石井忠、岡野幸雄、清水義雄、鈴木松蔵、並木克美、萩原忠雄、島崎昭、中村滋、吉田文雄、加藤征、大橋良一、折原豊之、加藤五郎、金子孝志、石井俊治、野川保、野中史一、森田享二『79回』大塚はま子、笠沼洋子、秋元千代子、小笠原力江、岡崎貞子、平尾静江、齋藤多美子、山口俊子、砂賀実枝、大塚忠男、齊藤隆宗、高山久男、新井好一、飯山武正、石川利男、須永美、野本千秋、和貝雅喜、神田久、小林博、土岐育久夫、野中重男、池田栄一、石川哲夫、市川博章、榎本善仁、田村三郎、山田幸吉『80回』田口正子、矢澤美佐子、宇野野美恵子、保泉正子、金子忠、五十嵐誠二、栗原基安、田口幸隆、西田高久、平社陽平、藤田竹一、宮本正、小川雄司、鈴木孝士、林喜一、小川明、日下部高雄、矢嶋利雄、高橋拓治、深谷豊、北原信人『81回』瀧田和子、新井廣子、高橋典子、神山登美枝、伊古田陽子、真崎知子、蓮沼嘉一、安原一夫、増田俊夫、浅井順、高瀬賢一、野々山和須、宮浦平治、江森信行、秀間道信、鈴木恒夫、綱川治、植竹博、瀧田実、橋本順雄、賀山進『82回』熊谷麻子、白井朝子、片岡みどり、関根知代子、黒須明海、増田卓司、内田武夫、小川良雄、森馨、安藤功、池田勝一、田中元三郎、島海和彦、伊藤千廣、清水亨、関根剛、三木和明『83回』荒木明代、田辺厚子、南部弘子、高橋妙子、武正光江、萩原達雄、宮崎弘行、矢島一憲、小倉健治、鈴木一雄、若山勝彦、中澤浩之、監物一男、赤坂美『84回』太田順子、平沢清、唯島吉彦、小泉勝巳、小熊喜美雄、腰塚隆、駒井勝、関根雅彦、矢島文夫、野村邦美、関根郁夫、吉野宏、三ツ木規之、荒井信明、金子清志、木村操、高橋一雄、増田敏雄『85回』杉田広之、星崎美智子、荒井弘、新倉敏美、北村弘美、片山秀文、深谷繁男、荒井信男、加藤正二郎、金子文男、吉田憲史、小野田幸夫、岡尚省、川崎一也『86回』石井義久、駒井信亮、森田孝文、奈良高男、船川喜正、小林くみ子、中野晃、奥澤博美、松岡延勝、小島一男、鈴木一善、吉野道博『87回』木村弘、田中利幸、岡安一雄、櫻井真二、瀧山良一、古沢暎、植松和子、仲山高司、中田代助、堀口泰正『88回』谷津孝、小澤一夫、秋山泰、大久保泰伸、白石秀明、松永知子、増田敏子、中島一郎、森泉堪司、荒木宣子、島崎弘明、永井清史、鈴木紀之、長谷部武『89回』石井仁、岡戸明、吉田正、小林澄江、小林弥太郎、齊藤規生、並木宗、小野田榮、加藤修、酒井春雄、武正章、小川博和、坂田亨、中島一彦、細村泰夫『90回』越谷裕美、金子孝雄、矢島泰、柴田信行、蛭間吉伸、田島洋文、玉田建夫、羽田邦弘、川上良一、新井健一、小川毅彦『91回』小山眞正、武内江里子、坂入順子、野中恵美子、池上正智、矢辺徹『92回』神澤秀明、佐藤浩司、秋山淳、江原千裕、木村力、福澤理、三浦甫、赤坂由美、八木雅子、隅田薫、伊藤裕子、落合章子、木村知代、鎌田時江、竹田秀行、酒巻浩一、五味登志子、仲山千津子、阿部幸夫、服部敬人『93回』古澤伸枝、横堀卓子、二階堂二哉、萩原章、中村孝広、矢嶋正俊『94回』内田靖、新島浩、飯田育雄、田尻伸行、三宅光子、新井康之、瀧本俊智、加藤健司、藤野邦夫、柿沼武夫、小嶋素志、金子功、堀口真史『95回』川島規行、倉科淳、熊谷壽、遠藤貴子、川島聡、美智代 Zolner、飯野浩一、松本剛明『96回』三塚和幸、柿崎暎、小林高広、島海仁克、林部智子、梅澤義一、中村哲史、吉田淳子、鈴木洋子、奥澤幸夫、高橋博幸、折原義彦、金子隆浩、並木智雄、石川友喜、松本毅『97回』市川敏行、大塚俊、野本昌宏、吉羽誠治、張真由美、増田勝弘『98回』真坂八重子、萩野敏成、忍田昇一、松本幸枝、早川俊哉、野野啓、堤光伸、矢島徹、鷺田博明『99回』諸井真英、加藤富之、西片奈々、小林秀幸、三浦邦明、渡辺将生、橋本智己『100回』藤田千恵子、小林耕司、岡本毅、野本昌寛、幸谷智『101回』駒場慎一、高橋慎一朗、中村重継、萩野光子、渡邊信弘『102回』黒須玉衣『103回』岡安聰、森野明美、内田裕子『104回』相沢千冬、近藤美緒、吉久保道明、松浦由美子、渡辺悟史『105回』日下部綾子、板橋孝幸『106回』内藤貴志、川島利佐子、三浦豊、森本大、櫻田忍『107回』福田辰紀『108回』齋藤麗、中西洋一、林麻衣子、塩崎秀弥、福島啓之『109回』戸塚郁江、本田雅子、渡辺千恵子『110回』木村正和、中里善匡『111回』田口亜紀子『112回』駒井康秀、和田裕『113回』新悦一、秋山亨『114回』堀口雅人『115回』鈴木耕平、大久保聡司『116回』駒井信勝、村田順子、金子隼人『117回』船川健一『118回』益子倫行、條野宏司郎『119回』船川康太、新井亮裕、荒木茉莉奈『120回』増田菜穂子『121回』酒巻和也『122回』秋元麻里、飯島春美、貝塚翔太、隅田茜『124回』酒巻由梨奈、山中知奈美『125回』小林薫子、北林はる菜、隅田萌、田中大暉、石沢嵩晴『126回』伊藤実穂、杉村直見、長谷川陽美、鈴木孝典、野澤和生、今野直貴、石井貴大、高橋昌史、杉山美花、町田規憲『127回』坂本涉、長谷川彩夏、金井昂大、中村優花『128回』千葉真理子、田中美桜子『129回』羽鳥恵子『定・中心・普通3回』須田鶴郎『定・中心・普通6回』並木啓政『定・中心・普通7回』秋山美佐保『定・中心・普通8回』田口富治『定・中心・普通18回』齊藤悦子『定・中心・別2回』綱取八重子『定・中心・別4回』鈴木文子『定・普通12回』野口千栄子『定・普通3回』中山弘『定・普通18回』板谷明『定・普通7回』戸井田繁『定・普通10回』若山弘『定・普通・別8回』石井ひで『定・普通1回』阿部武夫『定・普通7回』大月美代子『定・普通10回』森田清子『定・普通12回』伊澤一郎『定・普通15回』柿沼準一『定・普通17回』中村正次郎『定・普通18回』星フチ子『定・北川辺・普通15回』中田英文『定・北川辺・普通15回』山口定男『定・北川辺・全日制1回』飯塚利雄(敬称略)

皆様の協力ありがとうございました。今後引き続き協力をお願い申し上げます。

学友会ホームページ http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp
メール配信サービス
学友会では学友の皆様と親交を深めるために、メールによる情報配信サービスを始めました。右記QRコードで是非ご登録下さい。